

1 策定の目的・趣旨

京都観光を振興する意義

- 京都の「光」によって、観光客の心の豊かさを高める。
(※「光」=地域固有の文化、自然、産物、人や暮らし等)
- 京都のまちの持続的な発展を支え、市民の暮らしを豊かにする。
 - ・ 地域文化や地域コミュニティの継承・発展
 - ・ 美しいまちなみや充実した都市機能等の魅力的なまちづくりの進展
 - ・ 産業の振興、雇用の創出等の京都経済の活性化
 - ・ 京都のブランド向上や地域への愛着・誇りの醸成
- 相互交流の促進を通じて、国際親善、国際平和に貢献する。

計画概要

1 計画名称

京都観光振興計画2025 (案)

2 計画期間

令和3年(2021年)度～令和7年(2025年)度までの5年間
※併せて2030年時点までの長期的視点を持ったものとする。

3 策定趣旨

- 本市では、「世界があこがれる観光都市」を目指し、オール京都で多彩な施策を展開してきた結果、日本人、外国人観光客の高い満足度の維持や、観光消費を通じた地域経済の活性化、地域文化・地域コミュニティの継承・発展などに寄与してきた。
- その一方で、近年発生した一部観光地の混雑やマナー問題等の観光課題は、市民生活に影響を及ぼすとともに、今般の新型コロナウイルス感染症拡大に伴う旅行需要の激減などにより、京都観光はかつてない危機的な状況となっており、ウィズコロナ社会における安心・安全との両立など、観光の在り方も一変している。
- まさに京都観光が大転換期を迎えている今こそ、本来の観光の意義を今一度考え、この間の経験も踏まえつつ、新たな京都観光のあるべき姿と、それを実現するための戦略を明確化し、京都観光がより持続可能な観光へ進化し、SDGsの達成にも寄与するための道しるべとなるよう、ここに「京都観光振興計画2025」を策定する。

2 京都観光を取り巻く状況

京都観光を取り巻く現状と課題 (新型コロナウイルス感染症拡大前)

観光を取り巻く情勢

1 世界の動向

- ・ アジアをはじめ世界の観光は長期的に見れば成長傾向
- ・ 国際観光収入の増大、世界の富裕層人口の増加
- ・ 「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に向けた取組の推進
- ・ 地球温暖化、気候変動への対応
- ・ 災害、感染症、テロ等に対する危機対応の必要性増大
- ・ デジタル、AI、ビッグデータ等 テクノロジーの進展

2 日本の動向

- ・ 少子高齢化、人口減、国内旅行者の減、労働力人口減少による人手不足、地域コミュニティの希薄化
- ・ 国を挙げた観光立国実現に向けた取組の推進、インバウンド増加
- ・ 東京五輪、関西WMG、関西万博等のビッグイベント開催
- ・ 観光地域づくり法人(DMO)の果たすべき役割の増大

3 京都の動向

- ・ 文化庁の京都への全面的移転(令和4年度中)、文化を基軸とした都市経営の推進
- ・ 2050年二酸化炭素実質排出ゼロ、IPCC京都ガイドラインなどの温暖化対策
- ・ 低経済成長と厳しい京都財政、厳しい伝統産業、商店街等
- ・ 有効求人倍率の上昇、担い手不足

京都観光の現状と課題

- 観光消費額は順調に推移しているが、より幅広い産業へ波及することが必要
- 日本人観光客・修学旅行生の減少。日本人リピーターの訪問頻度が減少傾向
- インバウンド観光客は増加するも、世界での京都の認知度に向上の余地
- 「時期」の分散化が進展する一方、「時間」「場所」については更なる推進が必要
- 国際会議開催件数は飛躍的に増加するも、誘致競争強化や、経済効果、地域貢献効果の一層の向上が課題
- 市民については、観光の重要性は認識しているが、混雑・マナー違反等への懸念あり。また、観光のプラス効果(雇用、経済波及等)の認知は不十分
- 観光産業において人手不足の状況が見られるとともに、非正規雇用率が高い状況
- 宿泊施設が一部の地域に集中して急増
- 公共交通の利用が進むが、一部の市バス等交通機関の混雑は継続

新型コロナウイルス感染症の影響と京都観光の回復に向けた方向性

(新型コロナウイルスの影響)

- ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う、旅行需要の激減、不要不急の外出自粛等により、京都観光を取り巻く状況が一変
- ・ 観光関連事業者の経営は極めて深刻化しており、京都観光はかつて経験したことのない**危機的な状況**

【京都における影響】 総延べ宿泊客数、外国人延べ宿泊客数、市内4百貨店総売上額が前年比を記載(出典:京都観光協会データ月報) 令和2年10月現在

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
総延べ宿泊客数	7.2%	-27.3%	-66.3%	-95.7%	-97.3%	-89.3%	-78.6%	-74.7%	-61.7%
外国人延べ宿泊客数	18.1%	-53.8%	-89.5%	-99.7%	-99.9%	-99.8%	-99.8%	-99.8%	-99.7%
市内4百貨店総売上額	-3.1%	-18.6%	-35.7%	-64.9%	-71.0%	-22.6%	-23.1%	-24.1%	-33.5%
京都府内有効求人倍率	1.55倍	1.54倍	1.44倍	1.36倍	1.24倍	1.13倍	1.04倍	1.00倍	1.01倍

【国全体の状況】

- ・ 令和2年9月の訪日外客数は前年同月比99.4%減の13,700人となり、12箇月連続で前年同月を下回った。
- ・ 令和2年4-6月期の日本人国内延べ旅行者数は3,714万人(前年同期比77.4%減)、同国内旅行消費額は1兆40億円(前年同期比83.3%減)

(京都観光の回復に向けた方向性)

- ・ 感染症予防・拡大防止を徹底することにより、**市民・観光客双方にとって安心・安全な環境を整える**とともに、**観光課題解決先進都市**として、**市民生活や地域文化をより重視し、市民が豊かさを感じられる観光**を目指しながら、**国内の観光客、そして海外の観光客**というように、**徐々に観光の再開を図る**ことで需要の回復につなげ、関連産業を含めた幅広い事業者の経営が正常化するよう取り組んでいく。

※次期計画策定時における直近の状況を記載

徹底した感染症予防・拡大防止対策と観光の両立

市民の安心・安全と観光に訪れる方の安心・安全を確保することで、安心して京都の魅力を満喫していただけることを目指す。

市民生活・地域コミュニティと観光の更なる調和

観光事業者等に「地域への貢献」を促すことで、市民生活と観光の調和を図り、市民生活の豊かさにつなげることを目指す。

3 京都が目指すべきまちづくりと観光

様々な危機に対応し、地域や社会の課題解決に貢献していく持続可能な観光

- ・市民生活と観光の調和の下、京都の魅力向上等による観光客の満足度の向上や、観光の担い手がより活躍できる環境の整備、さらには観光による地域経済の活性化、文化・コミュニティの継承発展、環境の保全、世界の人々の相互理解の促進など、**市民(地域)、観光客、観光事業者・従事者等にとってより質(満足度)の高い、持続可能な観光を目指す。**
- ・災害や感染症をはじめとした**危機に適切に対応できる観光を目指す。**
- ・これらの実現に向けては、AI・ビッグデータ活用を含むデジタル化の推進、スタートアップとの連携、大学の知の活用など、技術革新への対応や京都の強みの活用などに留意する。

2030年に実現すべき5つのまちづくりと観光像

1 市民生活と観光の調和が図られ、市民が豊かさを実感できる。

- ・観光客による移動やふるまい、観光事業者による事業活動や開発などが、市民生活とより調和的に行われる。
- ・観光による経済効果がより広く波及し、地域の産業が振興するとともに、観光の力を活かして地域の文化や景観等が継承される。
- ・市民が観光による地域への効果を実感できるとともに、自身が京都の魅力を存分に味わい、京都により誇りを持つ。

(指標案) 市民にとっての観光の重要度、市民の生活の快適度、京都への誇り・推奨度、観光の実施状況、関連産業指標 等

2 あらゆる主体が京都の「光」を磨き上げ、観光の質を高める。

- ・京都の文化、自然、景観が守られ、さらに新しい魅力が創出されることによって、観光客がより多様な楽しみ方ができる。
- ・観光客へのサービスや受入環境、情報発信が充実することにより、観光客の満足度や利便性が向上する。
- ・サービスの低下等につながる競争に陥ることなく、観光客の満足度や消費単価の向上、ひいては観光事業者の労働環境の改善等につながる好循環を確立する。
- ・市民と観光客との交流や、観光・文化ボランティア等への支援を通じて、観光客へのおもてなしが向上する。

(指標案) 観光消費額単価、観光客推奨度、不満を感じた割合、リピーター率、宿泊率・平均宿泊日数、文化関連指標 等

3 MICE都市としての魅力が確立し、世界の人々が集うまちになる。

- ・京都の歴史、文化、自然等の多彩な魅力が磨き上げられ、MICE都市として世界から選ばれ続ける。
- ・世界の人々が京都に集うことにより、地域貢献や文化の継承、学術・産業の振興につながる。
- ・MICEの担い手が増え、オール京都で誘致・開催支援に取り組む環境が整う。

(指標案) 国際会議開催件数 (ICCA, JNTO), 消費額 (経済効果額), MICEによる延べ宿泊者数 等

4 観光の担い手がより活躍し、観光分野での起業・事業創出が盛んになり、都市の活力向上や文化の継承に寄与する。

- ・観光事業者の雇用の安定化、処遇の改善が図られて、誇りや意欲をもって働ける環境が整えられ、文化の担い手としても活躍する。
- ・生産性向上等を通じて観光事業者の競争力が高まるとともに、起業や新規事業創出が盛んになり、都市の活力向上につながる。

(指標案) 従業員満足度、雇用者数 (正規雇用者数) 等

5 災害や感染症などの様々な危機に対応できる、しなやかで力強く、安心・安全で持続可能な観光を実現させる。

- ・災害や感染症等の様々な危機に対し、事前に十分備えるとともに、発生した場合に適切・迅速に対応し、関係者全ての安心・安全を確保できる。
- ・平常時においても、事故や犯罪等が抑制されるとともに、医療を受けやすいなど、安心・安全を確保する体制が万全になる。

(指標案) 観光客の国・地域等の多様化、市内の犯罪認知件数、公共交通の利用割合、環境動向指標 等

京都観光の推進 ⇒ SDGsの達成に貢献 

京都観光における
更なる観光の質の向上

○市民(地域)と観光の調和や観光による地域への更なる貢献などによって**市民(地域)**の満足度や豊かさが高まること

○京都の文化、自然、景観などの「光」をより輝かせ続けるとともに、魅力的なコンテンツ・商品・サービスの充実や付加価値の増加、よりあたたかなおもてなしなどによって、**観光客**の満足度が高まること

○**観光事業者**がより誇りや意欲をもって働くことができるようになるとともに、**観光事業者等**がより安定的かつ活発に事業を行えるようになること

○**あらゆる主体**にとって、京都観光がより安心・安全になること

○これらにより、**京都観光**がより持続可能になること

※観光にはMICEを含む。

※観光客にとっての観光の質の向上を通じて、持続的な京都への来訪や消費単価の向上等を図り、市民(地域)や観光事業者・従事者等の質の向上につなげる好循環を確立する。

目指す姿の実現に向けて必要な観点(横断的な観点)

1	新型コロナウイルス感染症による影響からの力強い回復	徹底した感染症予防・拡大防止対策と観光の両立を図るとともに、市民生活・地域コミュニティと観光のさらなる調和を図りながら、観光需要の回復につなげ、関連産業を含めた幅広い事業者の活動の正常化を目指す。
2	文化の継承と環境への配慮を重要視した観光の推進	京都の豊かな文化資源を活かし、官民が一体となって文化の継承や新たな文化の創造につながる観光を推進する。また、観光による温室効果ガスの排出抑制や廃棄物削減などに向け、観光客や観光事業者などが環境に配慮した観光を実践する。
3	ICT等の活用とイノベーションの推進	ICT等の活用、イノベーションの推進を通じて、生産性の向上や、質の高い観光サービスの提供、観光課題の解決等につなげる。
4	エリアごとの観光を推進・管理する仕組みの強化	地域団体等との連携の下、地域ごとに観光課題解決や地域の魅力・豊かさの向上を図る仕組み・体制を強化する。
5	市民・観光客・事業者と市・DMOのコミュニケーション強化	京都の魅力や文化のより効果的な伝達、市民の観光に対する共感の輪の拡大、観光事業者とのより緊密な連携等に向け、各主体と市やDMOとのコミュニケーションの強化や伝達手法の改善等を図る。
6	DMOを核としたオール京都での協働、広域連携強化	目指すべき観光の実現に向け、DMOが中心となって民間事業者や地域団体等の幅広い関係者と協働する。また、近隣自治体やDMO等と連携し、各地域の活性化や観光客の満足度向上に資する観光の実現を目指す。

4 5つの観光像とその実現に向けた取組

(1) 市民生活と観光の調和・豊かさの向上

★コロナからの回復期における重点取組

★文化や伝統の維持，地域経済の正常化に向けた京都観光の力強い回復

- ・安全性の確保を前提とした段階的な京都観光の再開

○観光課題対策の強化（混雑，マナー違反等への対応）

- ・3つ（時期・時間・場所）の分散化や広域観光の推進等による混雑対策の強化
- ・宿泊施設などの観光事業者による地域と調和した取組の推進
- ・地域団体等と連携した地域の習慣・ルールの観光客への伝達

○観光による地域経済等への貢献の最大化

- ・観光による伝統産業をはじめ関連産業の振興
- ・地産地消や地域産品・地域産材活用の推進
- ・市内全域・周辺地域への回遊促進による地域の活性化

○観光による文化の継承と創造，美しい景観の保全

- ・観光による伝統文化や文化財の維持・継承
- ・観光客の利用・参加促進による文化施設や文化イベントの振興
- ・観光を通じたアート市場の活性化
- ・歴史的なまちなみや，美しい景観の維持継承

○観光による多様な分野における課題への対応

- ・観光を通じた教育や保健，福祉等の課題解決に資する取組の推進

○観光に対する市民の共感の輪の拡大と

市民が京都の魅力により多く触れる機会づくり

- ・観光効果の見える化と発信強化
- ・市民が京都の魅力を再認識できる機会の提供
- ・観光事業者等による地域貢献の推進
- ・観光客・市民双方の利便性を高めるインフラ充実

(3) MICEの振興

★コロナからの回復期における重点取組

★ウィズコロナ社会における安心・安全なMICEの徹底と開催スタイルの変容への対応

- ・感染拡大予防対策の徹底，国内MICE案件の誘致・開催支援
- ・MICE開催のオンライン化・ハイブリッド化等を受けた新たなニーズへの対応

○MICE京都ブランドの一層の磨き上げと競争力強化

- ・京都ブランドの磨き上げと国内外への発信強化
- ・環境負荷の一層の軽減
- ・マーケティング能力の向上
- ・MICE参加者の満足度向上，リピーター化の促進
- ・プレジャー，ワーケーションを促進する仕組みづくり

○MICEによる地域貢献，文化の継承，学術・産業振興の促進

- ・市民，市内事業者のMICEに対する理解の促進
- ・地域企業のMICEへの参入促進と地域経済への確実な還元
- ・市民公開講座や地域参加型イベント等の地域貢献プログラムの推進
- ・文化の継承に資するユニークメニューの活用
- ・MICEを契機としたイノベーション，スタートアップの促進

○オール京都のMICE誘致・開催に向けた担い手の育成と環境整備

- ・産・学・公の連携による誘致・開催支援
- ・学生等のMICEへのボランティア参加の推進
- ・家族的会議（国連観光・文化京都会議，京都コンgres等）の誘致・開催支援
- ・MICE施設間の連携，広域での相互送客，国立京都国際会館のホール拡張

(2) 京都の「光」の磨き上げ・観光の質の向上

★コロナからの回復期における重点取組

★ウィズコロナ社会で安心して楽しめる観光コンテンツ等の充実と発信の強化

- ・三密を避ける観光コンテンツの充実

★文化や伝統の維持，地域経済の正常化に向けた京都観光の力強い回復（再掲）

- ・安全性の確保を前提とした段階的な京都観光の再開

【魅力の維持と向上】

○観光による文化の継承と創造，美しい景観の保全（再掲）

- ・観光による伝統文化や文化財の維持・継承
- ・観光客の利用・参加促進による文化施設や文化イベントの振興
- ・観光を通じたアート市場の活性化
- ・歴史的なまちなみや，美しい景観の維持・継承

○観光コンテンツの磨き上げと新しい魅力の創出

- ・観光コンテンツの磨き上げによる付加価値の高い体験・商品等の提供
- ・京都の魅力向上に資する新たな観光コンテンツの創出
- ・新しいエリアのにぎわいの創出

○環境にやさしい観光の推進

- ・自然や環境をテーマにした観光の推進

○リピーター対策の強化

- ・観光客と京都とのつながりを築く仕組みづくり
- ・観光客の興味・関心等に応じたきめ細かな対応の充実
- ・海外観光客のリピーター化の推進

○宿泊観光・長期滞在化の促進

- ・朝・夜観光のコンテンツ，食のコンテンツの充実と発信強化
- ・宿泊施設の魅力向上に向けた支援，旅館ブランドの向上と発信
- ・ワーケーション等の新たな滞在型観光促進
- ・京都の宿泊観光につながる広域観光の推進

(4) 担い手の活躍

★コロナからの回復期における重点取組

★新型コロナウイルス感染症の影響からの回復に向けた事業者支援

- ・人材育成や事業展開等での回復に向けた支援

○観光関連人材の確保・育成・定着支援の強化

- ・働く場としての京都のブランド向上，観光事業従事者の満足度向上
- ・地域の文化や歴史を学ぶ，文化の担い手としての育成支援
- ・大学や専門学校との連携等によるマネジメント層の育成強化
- ・留学生や在日外国人の就職・定着促進

○観光関連ビジネスの活性化

- ・ICT等の活用を通じた生産性向上・競争力強化
- ・観光事業者がにつながる仕組みの構築
- ・観光分野における起業等支援

【多様なニーズに応じたサービス・受入環境・情報発信の充実】

○ICT等を活かしたおもてなしの強化と受入環境の充実

- ・ICT等を活用した観光客向けサービス・利便性向上
- ・公共交通機関の利便性向上
- ・高齢者や障がい者，多様な文化的背景を持つ観光客ニーズへの対応

○情報発信の更なる強化

- ・観光客のニーズに応じた国内外向け情報発信の強化
- ・多様な主体と連携した情報発信

○修学旅行・教育旅行対応の強化

- ・修学旅行誘致の強化と教育メニューの充実
- ・大学との連携等による学びのコンテンツの充実

○富裕層旅行対応の強化

- ・富裕層ニーズを踏まえたコンテンツ開発・情報発信

○市民のおもてなしの向上

- ・観光・文化ボランティアの支援
- ・市民のおもてなしの向上
- ・市民と観光客の交流促進

(5) 危機に対応でき，安心・安全で持続可能な観光の推進

★コロナからの回復期における重点取組

★ウィズコロナ下における安心・安全な観光の推進

- ・観光事業者・観光客・市民が一体となった感染症対策の徹底

○災害・感染症・国際危機等への危機管理体制の強化

- ・多様なリスクごとに応じた効果的な情報発信・コミュニケーションの強化
- ・観光事業者や地域と連携した危機管理体制の強化

○特定市場に依存しない誘客の多角化

- ・災害や風評被害などの影響を受けにくいファン・リピーター層や近郊からの顧客層の充実
- ・入洛客の年齢，国別・地域別等の多様化

○事業者のリスク対応力強化の支援

- ・事業者に対する危機管理対応への支援
- ・災害時等に利用できる支援制度の情報整理と周知

○市民と観光客双方の安心・安全の強化

- ・犯罪防止，交通事故防止の取組強化
- ・より医療を受けやすい環境の整備
- ・宿泊施設等における安心・安全の確保

○環境にやさしい観光の推進

- ・観光事業者・観光客の温室効果ガス排出・廃棄物抑制

5 推進体制・推進の仕組み

- オール京都での計画の推進
- 京都観光行動基準（仮）の普及・実践
- エリアごとの観光を推進・管理する仕組みの強化
- DMOを中心とした推進体制の強化
- 持続可能な観光に向けた計画の進捗管理